

第 30 回東京医科大学医科学フォーラム
The 30th Medical Science Forum (MSF)

黒田 雅彦¹⁾ 後藤 浩²⁾

Masahiko KURODA¹⁾, Hiroshi GOTO²⁾

オーガナイザー

¹⁾ 東京医科大学分子病理学講座

²⁾ 東京医科大学眼科学講座

第 30 回医科学フォーラムは、3 月 10 日に東京医科大学病院教育棟にて開催された。テーマは「東京医科大学の橋渡し研究の展望」という大きな題目のもとマイクロ RNA (miRNA) の話題を取り上げた。miRNA はタンパク質をコードしない 20 塩基長前後の小 RNA 集団である。miRNA は、標的となる RNA の発現を抑制することで、生体の様々な生理活性を制御することが知られている。ゲノム上に相当数の miRNA がコードされていると推測され、生体機能を理解する上で miRNA の機能解析は不可欠であり、新たに、疾患を誘発する要因として miRNA の変異を視野に入れる必要性が指摘されている。

そのような背景の中、今回私が『microRNA と疾患』という講演を行った。そこで、(1) RNase 活性のある血清中に安定的に miRNA が存在すること、(2) 種々のがん患者血清中に miR-92a の発現が低下すること、(3) 血清中の miRNA は 50-90 nm のエクソソームに存在し RNase に抵抗性であること

を紹介した。さらに、このエクソソーム含有 miRNA を用いての治療応用の展望について述べた。今回の研究発表の内容は、臨床各科との共同研究も含まれており、発表後、基礎、臨床講座の参加者による質疑応答が活発になされた。

また、最後に医科学フォーラムへの提言として、組織・神経解剖学教室の山田仁三主任教授（現、名誉教授）より、「医科学フォーラムの未来」というテーマでお話を頂いた。山田先生は、東京医科大学の学生教育において、従来の視点だけではなく、新たな発想で望む必要性など極めて意義深いお話しをされた。

医科学フォーラムは、本開催で 30 回を数えるに至ったが、トランスレーショナルリサーチの重要性が指摘されるなか、まさに基礎と臨床の連携を目指す我が大学において本フォーラムの意義は大きいと考える。

（文責 黒田雅彦）